

なぜ

英語が話せないの

< 3 >

昭和四十九年四月、自民党政務調査会に「外国語教育の現状と改革の方向」と題する試案が、平泉渉元参議院議員から出された。新聞、英語専門誌が取り上げ、米国の「ニューズウィーク」誌も二度にわたって掲載。国内外で大きな反響を呼んだ。

「わが国における外国語教育は、中等教育、高等教育が国民の多く限られた部分に対するものでしかなかった当時から、すでにその効率の低さが指摘されてきた。(中略)国際化の進む現状を考え、また、全国民の子弟と教師とが、外国語の学習と教育に払っている巨大な、しかし報われない努力をみると、この問題は今や文教政策上の最

英会話上達への障害多く

根強い翻訳主体の伝統

るのに「国民の大部分は、卒業の翌日から学習した英語がほとんど読めず、書けず、わからぬ向きもある。」

原因に、日本における外国語教育の伝統や「恥の文化」を挙げ、この傾向は、江戸時代の鎖国政策で外国との交流がほぼ全面的に途絶したことでさらに強まり、会話より文獻の翻訳、研究が主流になった、と

「入試英語が実用会話への意欲をそいでいる」と語る松本道弘氏とアラン・ブース氏



「入試英語が実用会話への意欲をそいでいる」と語る松本道弘氏とアラン・ブース氏

した」と解説する。聖徳太子が来朝した高麗人・惠慈から仏教を学んだのは、推古天皇の三年(五九五年)。仏教学といっても、漢訳仏典を読む高度な外国語研究で、日本人の外国語に對する関心は「原典を正確に読む」ことに向けられた。(太子が百濟へくだらしやシナの言葉すんだな」と文句を言う。怒った学生がクラス総がかりで質問

英語教育の第一人者、松本道弘氏(元NHKテレビ英会話講師)としない。外国語はうまく話せなくて当たり前というくらい